

平成28年度

病害虫発生予察情報 第5号

注意報第1号

北海道病害虫防除所 平成28年6月20日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

ばれいしよの疫病が早期発生の恐れ！ 防除適期を失しないように注意しましょう！

道内は6月から断続的な降雨が続いており、6月20日時点でばれいしよ疫病初発予測（FLABS）の累積値が危険期到達日（累積値21）に達した地点が23観測地点のうち19地点となっています。

札幌管区气象台による6月16日発表の1か月予報によると、向こう1か月（6月18日～7月17日）の降水量は、多い確率が日本海側で50%、オホーツク海側および太平洋側で40%と予報されています。また、日本海側およびオホーツク海側では日照時間が平年並か少ないと予報されています。本病は曇雨天が続くとまん延しやすいとされており、今後本病の発生に好適な気象条件となる可能性があります。

ばれいしよの疫病は、初発後急激に病勢が進展することがあるため、ほ場をよく観察し、薬剤の散布開始が遅れないように注意しましょう。

1. 発生地域 全道

2. 発生期 早

3. 注意報発令の根拠

- (1) 予察ほ（品種：「とうや」）におけるFLABS危険期到達日は、長沼町で6月16日（平年：6月17日）と平年並であるものの、芽室町で6月16日（平年：6月26日）と平年より早く、訓子府町で6月19日（平年：6月24日）、北斗市で6月14日（平年：6月18日）と平年よりやや早い。
- (2) 6月19日現在、道内のFLABS観測23地点のうち、19地点において危険期到達日に達している。
- (3) 疫病は、曇雨天が続くとまん延しやすい。
- (4) 6月16日発表の1か月予報によると、向こう1か月（6月18日～7月17日）の降水量は、多い確率が日本海側で50%、オホーツク海側および太平洋側で40%と予報されている。さらに日本海側およびオホーツク海側では日照時間が平年より少ないと予報されており、本病のまん延しやすい条件と考えられる。

4. 防除対策

- (1) 疫病は初発後、急激に病勢が進展することがある。すでに各地でFLABSの危険期到達日に達しているため、ほ場をよく観察し、薬剤の散布遅れにならないように注意する。さらに、降雨によって防除適期を失しないよう気象情報にも注意し、防除ガイドに準拠して薬剤散布を行う。
- (2) メタラキシル剤には全道で広く耐性菌が認められているので、薬剤の選択には注意する。
- (3) ダブルインターバル（14日間隔）散布を行う場合は、初発前から散布を開始し、薬剤は14日間隔での指導参考薬剤を用いる。

付記 1

北海道地方 1か月予報
(6月18日から7月17日までの天候見通し)

平成28年6月16日
札幌管区气象台発表

＜特に注意を要する事項＞

期間の前半を中心に前線や湿った気流の影響を受けやすく、向こう1か月の降水量は日本海側で平年より多いでしょう。

＜予想される向こう1か月の気候＞

向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、北海道日本海側で多い確率50%、北海道オホーツク海側・太平洋側で平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、北海道日本海側・オホーツク海側で平年並または少ない確率ともに40%です。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）＞

【気温】	北海道地方	20	40	40
【降水量】	日本海側	20	30	50
	オホーツク海側	20	40	40
	太平洋側	20	40	40
【日照時間】	日本海側	40	40	20
	オホーツク海側	40	40	20
	太平洋側	30	30	40

■低い(少ない) □平年並 ■高い(多い)

＜気温経過の各階級の確率（%）＞

1週目	6/18～6/24	北海道地方	10	30	60
2週目	6/25～7/1	北海道地方	30	50	20
3～4週目	7/2～7/15	北海道地方	30	30	40

■低い □平年並 ■高い